
夕日とブランコと君と僕

十二月院存在

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夕日とブランコと君と僕

【Nコード】

N3589E

【作者名】

十二月院存在

【あらすじ】

一緒に帰って夕日道、途中で公園よりました。昔遊んだあの公園。君と並んでブランコに、キイキイ鳴らして夕日を蹴った。

夕日が川に反射する。田柄橋たからばしの近くの公園で、僕と朱里あかりはブランコに乗っていた。

キィキィと鳴るブランコ。二人並んで扱いでいる。

小さい頃、二人でよくこの公園に遊びに来ては、ブランコに乗ったり、滑り台ですべったり、砂場で山を作ったり、追いかっこをして遊んだ。それも、今となっては思い出。昔々の思い出。

「岐丞きすけ、最近変わったよね」

突然、朱里がそんなことを言い出した。

小さい頃からの幼馴染。仲良く遊び始めてから、十年以上の付き合い。そんなことを言われたのは初めてだった。「頼りないね」とは、何回も言われたし、「ダサイよね」も何回も言われた。耳にタコができるほど言われた。正直聞き飽きた。

でも、突然そんなことを言われると、理由を聞きたくなくなるのが人間の性……いや、僕だけかな？

「変わったって、何が？」

ブランコがキィキィと鳴る。

「最近、カッコよくなってきたよね」

「え？」

カッコよくなった？ それを言われたのも初めてだった。というか、そんな言葉が朱里の口から出ること自体、信じられないというか……信じられない。

「どうしたの？ 急に」

僕は、朱里に聞く。何で、突然そんなことを言い始めたのか、さっぱり分からなかった。

「うん……」

朱里はうつむいた。そして、

「最近、好きな子とかいるの？」

何を聞くんた、こいつは。正直びっくりした。何で急に……。

「いないよ」

とりあえず、そう答えた。

「そっか」

さらりと、返す朱里。何なんだろう、本当に。

「なあ、どうしたんだよ」

ブランコがキィキィと鳴る。

「……」

朱里は黙っている。ブランコの音だけが聞こえる。

「阿佐美ちゃんあさみがね……」

朱里はまたうつむく。そして、黙る。いつもは僕を引っ張っていきような、そんな感じの朱里なのに、今日は何だか違う。まるで、別人と言つか……。

「雪村さんゆきむらがどうしたの？」

僕は、朱里に問いかける。すると、朱里は僕のほうを見て、

「岐丞のことが……その、好きなんだって……」

あれ？

「岐丞は、阿佐美ちゃんのこと、どう思ってるのかなあって」

なんか、朱里の様子が変だな。

「雪村さんは、あまり話したことが無いし、どうって言われてもな

あ……」

「どうなの？」

曖昧な返答をした僕に、間髪入れずに聞く朱里。本当に、今日は様子がおかしい。

「どうって……うん、まあ、クラスメイト……かな」

やっぱり、曖昧な返答しか出来ない。

「別に、好きって訳じゃないのね？」

朱里は、ちよつと嬉しそうな感じに聞く。

「うん」

と、短く返答する僕。

そして、一息ついたかのように息をする朱里。そして、

「あのね……」

朱里は、

「……」

僕の耳元で、

「……」

静かに、

「ね？」

ささやいて、夕日に負けないくらい顔を真っ赤にした。

僕も、顔が真っ赤になるのが分かるくらいに、熱くなった。

そうだったんだ。知らなかった。ずっと一緒にいるから、お互いのこと、全部分かってるかと思ってた。でも、それは大きな間違いだった。実際には、何も知らなかったんだ。

僕は、

「いいよ」

と答えた。

僕と朱里はブランコから降り、手を繋いで公園を後にした。

あの頃、小さい頃に夕方まで遊んで、家に帰るときと同じように手を繋いで。

そして、ブランコはしばらく、キィキィと鳴っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3589e/>

夕日とブランコと君と僕

2010年12月21日02時37分発行